



#### 【IV. 指標以外の観点からの評価】

取組 No.	指標以外の観点からの評価
①	・フェリー事業者が行う利用促進のための情報発信等に対して、補助率を引き上げるなど事業の拡充を行った。
②	・別府港-12m岸壁に仮ターミナルが開所し、LNG(液化天然ガス)対応の大型新造船フェリー2隻目が就航した。
③	・大分空港への海上アクセスの実現に向け、ホーバークラフト3隻が納入された。また、港湾・旅客ターミナル等の整備が完了した。 ・コロナ後初の国際線として、6月には韓国のチェジュ航空が運航を開始、さらに1月には大韓航空の就航により、ソウル線が再開した。 ・MaaSアプリ「my route」を活用したデジタル乗車券を販売するなど、利用者の利便性向上を図った。
④	・バス情報(時刻表、運賃)のオープンデータ化により、駅や空港などの交通結節点から幹線バスへの乗り継ぎの円滑化を引き続き図った。
⑤	・物流ネットワークの充実を図るため、国道212号日田山国道路など、港湾へのアクセス道路の整備を推進した。
⑥	・増加する車両・貨物に対応するため、臼杵港では新フェリーターミナル等の整備を推進した。大分港大在西地区ではRORO船ターミナル整備、別府港では埠頭整備等を推進した。
⑦	・大分流通業務団地において、2社に対して分譲を行った結果、当該団地は完売となった。
⑧	・トライアル輸送により、RORO船輸送の利便性・有益性を運送事業者に確認した結果、多くの利用者から継続利用の意向が示された。 ・ポートセールス等による他港利用貨物の大分港(大在CT)への利用転換や、中国経済の緩やかな回復、休止していた韓国航路のR5.1の再開により、外貨の実入りコンテナ数は前年比108.0%(29,534TEU)となった。

#### 【V. 施策を構成する主要事業】

取組 No.	事業名(5年度事業)	事務事業評価	
		成果指標の達成率(%)	掲載頁
①② ③④	九州の東の玄関口としての拠点化推進事業	88.7	364
③	国際航空路線誘致・拡充促進事業	102.0	364
	MaaS推進事業	105.0	364
⑤	(公)道路改良事業	—	370
⑤⑧	ポートセールス推進加速化事業	127.1	365
	東九州海上物流拠点推進事業	90.1	366
⑥	港湾整備事業	—	366
⑦	流通拠点整備推進事業	100.4	228

#### 【VI. 施策に対する意見・提言】

○大分空港利用促進期成会総会(R5.7) ・是非今後も国内線のチャーター便を実施してほしい。	
---	--

#### 【VII. 総合評価と今後の施策展開について】

総合評価	施策展開の具体的内容
B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・九州の東の玄関口としての拠点化に向け、引き続き空港・港湾機能等の強化に取り組む。</li> <li>・大分港大在西地区では、国直轄、県事業一体となってRORO船ターミナル整備を推進していく。</li> <li>・別府港では、別府港再編計画に基づき、岸壁や埠頭の整備を推進していく。</li> <li>・大分空港の国際線については、韓国線の定着のための利用促進、台湾その他アジア地域からの路線誘致に引き続き取り組む。</li> <li>・大分空港のアクセス改善に向けて、ホーバークラフトのR6年秋就航を目指す。また、就航前にホーバーターミナル内覧会の開催やTV・SNSによる情報発信などを行うことで、利用促進に取り組む。</li> <li>・ホーバークラフト就航を契機とし、西大分発着地をハブとした二次交通の充実を図る。</li> </ul>